

ワーグナー：歌劇「タンホイザー」序曲

歌劇「タンホイザー」は、19世紀ドイツの作曲家、リヒャルト・ワーグナー（1813-1883）が中世の伝説をもとに自ら台本を書いた3幕の歌劇。官能的な愛と清純な愛のあいだで葛藤する騎士タンホイザーが、清らかな恋人エリーザベトの自己犠牲によって救済される。1845年10月にドレスデン宮廷歌劇場で初演後、終幕に手を加えて完成された。その有名な「序曲」は、第3幕の「巡礼の合唱」の主題から、第1幕の官能の女神ヴェーヌスとの饗宴へと移り、再び「巡礼の合唱」が変化した形で現れ、救済を暗示する。

遠山菜穂美

楽器編成：フルート3（ピッコロ持ち替え1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、トライアングル、タンバリン、シンバル、弦五部
※スコア上の表記

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。